

# 小千谷市立 総合支援学校 進路だより

No. 4 (R 4 / 1 0 / 2 0)

〒949-8721

小千谷市大字塩殿甲 2144 番地

TEL 0258-82-1878



小千谷総合支援学校グラウンドからの景色 信濃川と越後三山

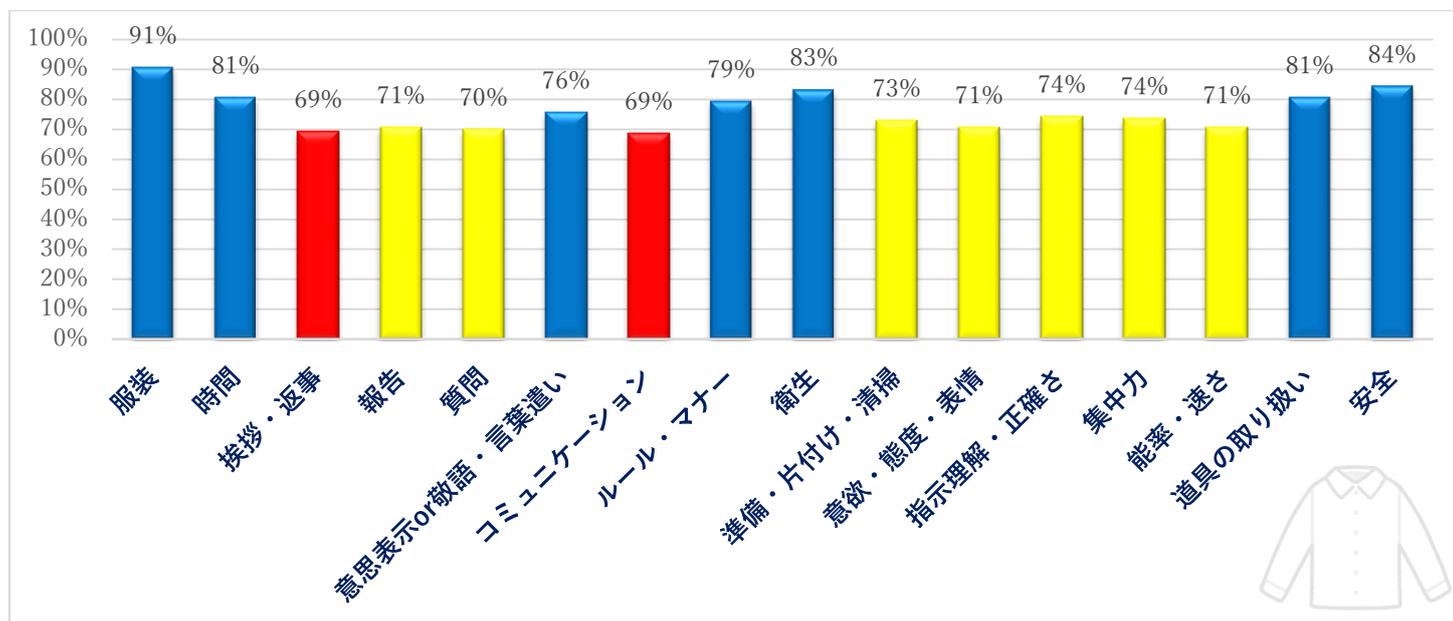
## 高等部【後期】職場・校内実習 10月24日スタート

	実習先事業所	紹介
福 社 サ ー ビ ス 業 所 企 業	ひだまり工房 就労継続支援 B 型 	1年生が2名、はじめての職場実習を行います。日中の作業だけでなく、バス通勤や帰宅後の電話連絡にも取り組みます。
	さつき工房 就労継続支援 B 型・地域活動支援センター 	勤務時間を調整し、高い集中力や生産性を維持する方が多い事業所です。自分に合う働き方を見つけてほしいです。
	ワークセンター小千谷さくら 就労継続支援 B 型・自立訓練 	広い環境で自分のペースで仕事に取り組みます。自立訓練では作業に加え、日常生活の自立を目指した訓練を行います。
	デイサービスセンターみなみ 生活介護	3年生が1名実習します。成人年齢に伴いサービスの利用形態も変化します。いよいよ卒業へ向け大詰めです。
	スリージョブながおか(長岡) 就労移行支援 	企業に出張しての作業・清掃が中心ですが、スリージョブ内での座学も行います。2年間の期限の中で企業就労を目指します。
	ワークセンターあんしん& エンゼル妻有(十日町) 就労継続支援 B 型 & 宿泊型自立訓練	3年生が1名、エンゼル妻有に宿泊しながら自立生活のための訓練を行います。最終週の日中は、ワークセンターあんしんで作業をします。卒業と同時の自立生活を目指しています。
	ワークショップ想(そう) 就労継続支援 B 型	パン作りと販売を行います。販路拡大に伴い、外部へ出掛ける仕事が増えてきました。接客販売スキルも鍛えられます。
	ひかり工房 就労移行支援・就労継続支援 B 型 	1~3年生まで5名が実習します。就労移行支援での評価は、企業実習挑戦への登竜門です。現在の実力を計ります。
	中越住電装株式会社 	車の電気信号や電力を伝達するワイヤーハーネスを製造しています。2年生がこれまでの経験を踏まえ、自ら希望しました。
	新潟県ビル管理協同公社 (小千谷総合病院の清掃)	前は同社委託先のホテルニューオータニ長岡でしたが、今回はいよいよ就労を目指して小千谷総合病院で清掃を行います。
越後製菓株式会社高梨工場	前年に続きお餅製造工場の実習です。実際の就業生活と同様に過ごし、安定した力を発揮できるよう最後の準備を整えます。	
株式会社わたや平沢店	開店準備や清掃を行った後、食器洗いを担当します。お昼時はかなりスピーディーで、とっさの判断力が求められます。	
株式会社デイリーはやしや	食品製造工場で厳重な衛生管理のもとに調味料や食材の運搬、整頓を行います。加工部門は夏でも真冬のような気温です。	



# 高等部【前期】職場・校内実習 評価まとめと考察

～高等部生徒全員の評価票（各項目4段階評価）の平均です～



まず「服装・時間・衛生」が高評価でした。これらはご家庭のサポートによる部分が多い項目です。ご協力ありがとうございました。次に「安全」が84%でしたが、社会参加する上で一番重要な項目ですので後期は90%を目指して準備していきます。

今回の評価を受けて「挨拶・返事」、「準備・片付け・清掃」、「意欲・態度・表情」の3項目について考えてみたいと思います。

これらの評価の是非は実習当日の心掛けよりむしろ**普段の姿**で決まります。普段の挨拶や姿勢が職場では如実に現れるからです。普段から爽やかに挨拶をしてくれる生徒は職場でもほぼ間違いなく挨拶が評価されますし、「掃除の時間」で手を抜かない生徒は職場でも我先にと掃除をします。いずれも特別な技能は必要ありませんが、仕事の出来高よりも高く評価されることがあります。これが高等部3年生であれば、卒業後の受け入れ判断の決め手となってもおかしくはありません。普段から取り組めていれば自ずと肯定的な評価がいただける項目だけに、準備不足の結果は真摯に受け止める必要があります。そこで以下のように対策を考えました。

まず普段から高い意欲を維持するためには、**目標**が必要です。ここでの目標は「将来こんな生き方がしたい」という「**理想の将来像**」です。理想に近づきたいと思う気持ちが、**普段の姿を高める動機**になります。

しかし社会人経験のない子どもが己の将来像を描くことは難しく、普段から意識するのはさらに困難です。このような段階にいる子どもにとって必要なのは、**社会人である私たち大人の関わり**であると考えます。

私たちは社会人としての経験から「普段の姿」と「将来の姿」がどう繋がるのか、子どもに伝えることができます。例えば「自分で片付けたね。これで一人暮らしに一步近づいたね」、「日誌に『挨拶◎』とあるけど、挨拶がいい人は私の職場でも一目置かれているよ」といったことです。**ただ認めるだけでなく、それが将来のどのような姿へ繋がるのか、経験をもとに少し付け加える**。この小さなプラスαを大人が日常的に続けていけば、いずれ子ども自身が「将来のために今は○○を頑張ろう」と考えられるようになります。普段の姿はより積極的になり、職場でも成果が出るでしょう。そしてこの思考は大人になってからも必ず役に立ちます。

以上のように考えると、**実習評価は「私たち大人が子どもと関わってきた結果への評価である」ともいえます**。大人としての関わり方をよく考えることで、子どもたちの活躍を後押しできる。これは当たり前のことかもしれませんが、今回の実習評価を通して改めて気付くことができました。

後期実習がいよいよ始まります。プラスαの関りを心掛け、生徒を応援していきたいと思えます。

